

日本の犬の殺処分

浅間中学校 三年 江原 遙香

私は、日本の犬の扱いに不満を持っています。

というのも日本ではたくさん犬が「殺処分」されているからです。殺処分とは、いろいろなケースがありますが、主に二つあります。

一つ目は、病気やケガ、衛生上の問題などが理由です。

二つ目は、よい飼い主が見つからない、施設で飼育ができないなどの理由です。

私が特に不満を持っているのは二つ目のケースです。

理由は、多くの人を知っているペットショップの子犬はブリーダーやオークションから連れてこられます。

そして、売れ残ってしまった子犬はブリーダーに返還されることもあります。殺処分されることもあります。

つまり、みなさんが可愛いとなく見ていた犬も殺処分されているかもしれません。

ではどう殺処分されるのでしょうか。

注射による安楽殺や炭酸ガスによる窒息死です。

多くの場合は炭酸ガスの窒息死です。

想像してみてください。

窒息の初期段階では、激しい息苦しさ、顔色が悪くなります。

これはとても苦しい状況です。

犬も同じ生き物です。

このような思いをして殺処分の犬は亡くなっていきます。次に原因です。

「生活状況が変わった」「想像と違った」という飼い主の自分勝手な判断などによるものです。

私は、これを知った時は本当に悲しくなりました。

人間は殺してはいけないのに、犬はそんなに簡単に人間の手によって殺されてしまうのかと感じました。

最後に日本の現状についてです。

令和四年度の殺処分の件数は、二千四百三十四件です。

しかし平成十六年度は、十五万五千八百七十件と殺処分数は減ってきてはいますが、まだまだ多いです。

他の国では法律で禁止されているところもあります。

その他にもペットショップの裏側は、悲惨な状況です。

少し異常があると販売されることがなくなったり、子犬を生ませるだけ生ませたりします。

さらに、骨が折れてしまっても放置されるなど、気にかけれないという状況です。

私がこれを通して考えてほしいことは、三つあります。

一つ目は、自分達は「今」は、幸せ部分だけを見ていて「これから」は、悲しい部分も見るといふことです。

二つ目は、自分がもし悲しい状況の犬たちと同じ立場になった時あなたは周りの人にどうしてもらいたいか、それをあなたが実行してほしいです。

三つ目は、本当に今の日本の状況はいいのか、犬にかぎらず馬、猫などの動物たちも殺処分されています。

他にも、ペットショップで犬や猫、うさぎを売っている状況はどのような
でしょうか。

以上のことをみなさんによく考えてほしいです。